

思ふ老父母を常々思へば、いさゝかの感冒なりとて、よそごとゝはおもふまじきなり。寒温の不定についても、何かとあんじものし、あしき病ひ流行する時には、その邪気をよけ、山嵐の気をさけんとこそおもふべけれ。これ人の至情なり。古より忠臣は孝子の門より出るといへば、老父母のいたづき⁽¹⁾をも、心にかけざるものは、何事に実情はあらざるべし。さればこれをいかでそしらん。されども又浅はかに口外して、かゝる事聞ゆ、かくあらばかくせんなど、建議処置の事までも茶話にいひさわぐは、尤にくむべき事なり。如此浅はかにいふものは、心中さしても思はず。只我才をてらはむ為にして、実に御為をおもふにはあらざるものもおほかるべし。かの君子は国を思ふの心あるべし。国を思ふの語あるべからずといへる如くして、只心中に御為ならざるとおもはゞ、我一分にて、少しも防御など藩翰⁽²⁾相応のころがけもなすは職分の当道なり。其あたりまへの志を、はこぶまでの事也。

それ大君⁽³⁾の封領を、それへおびたゞく賜ふは何故ぞや。藩翰の御かための為にて、天下の御為なり。さらに諸侯の徒にほしひまゝに躬行をなし、飽食暖衣し、我嗜欲に適する事のみを心として、臣民の上をかつて思はず。かくても我は祖先何がしの裔なりと、人に高ぶりて、我儘のふるまひをなし、御奉公といふは、朔望⁽⁴⁾登城などのみの事と心得るたぐひになりゆきなば、其の祖先の罰はものかは、御恩恵に対し何といふべけむ。かゝる不肖の主人なれば、天罰を得てさまへ禍殃⁽⁵⁾来り、困窮弥増に至りても猶さくらず。第一祖先の事をもおろそかに思ひ、血統の事さへ心を用ひざる様に成行ては、天悪み鬼うらみて、いかで其国を全くせん。

- (注) (1) いたづき 病氣。
(2) 藩翰 幕府を守る存在。
(3) 大君 将軍。
(4) 朔望 毎月一日と一五日。
(5) 禍殃 わざわい。

- 1 ④ 次の文章は、中国・宋代の市舶司について述べた宋・朱或『萍洲可談』卷二の一部である(省略した部分があるが、「中略」等の表示は省いた。また、常用漢字に改めている)。その概要を四〇〇字程度で述べなさい。またこの記事をふまえ、宋代の海上貿易について、三〇〇～四〇〇字程度で説明しなさい(全体で八〇〇字を超えないこと)。

風 舶 許 海 有 至 驛 解 朝 州 有 謂
広 船 取 中 広 差 未 凡 色 以 凡 廷 最 市 之 広
帥 去 者 流 州 故 經 官 抽 十 舶 嘗 盛 舶 市 州
以 以 并 方 市 商 抽 市 三 分 至 併 官 司 舶 市
五 十 汲 丈 舶 人 解 価 分 為 帥 泉 吏 崇 使 舶
月 一 井 余 亭 莫 敢 微 抽 率 漕 州 或 寧 福 司
折 月 水 舶 枕 敢 私 又 外 真 与 舶 侵 初 建 旧
風 十 皆 船 水 犯 取 準 官 珠 市 船 漁 三 路 制
於 二 不 取 有 物 他 市 竜 舶 令 則 路 泉 帥
豊 月 可 其 海 貨 貨 各 腦 監 就 商 各 州 臣
隆 就 貯 水 山 者 与 有 凡 官 広 人 置 兩 漕
神 北 久 貯 樓 雖 之 差 細 澄 広 就 提 浙 使
風 則 以 正 一 多 然 色 閩 州 易 拳 路 領
来 生 過 对 毫 折 後 抽 其 商 処 市 明 提
以 蟲 海 五 皆 閩 商 一 貨 人 故 舶 州 拳
五 不 則 洲 没 故 人 分 而 或 三 官 杭 市
月 知 不 其 其 商 得 瑋 征 不 方 三 州 舶
六 此 壞 下 余 人 為 瑁 之 便 亦 方 皆 事
月 何 逾 謂 貨 病 已 蘇 謂 之 迭 唯 傍 祖
就 理 此 之 科 之 物 木 之 盛 広 海 宗
南 也 丈 小 罪 舶 凡 抽 衰 広 亦 時

- (注)○帥臣― 地方官。 ○漕使― 運輸を掌る担当官。
○提举市舶― 市舶の事務を管理すること。
○祖宗時― 北宋初期をさす。
○福建路― 路は宋代の行政区画の単位。福建路は現在の福建省一帯。
○泉州― 地名。現在の泉州市。
○兩浙路― 現在の江蘇省・浙江省一帯。
○明州― 地名。現在の寧波市。
○杭州― 地名。現在の杭州市。 ○傍海― 海のそば。
○崇寧― 北宋・徽宗時代の元号。西暦一一〇二～一一〇六年。
○侵漁― 利益となる物品をかすめ取ること。
○就易所― ここでは利便のよい他所へ行くこと。
○監官― 監察官。 ○洩関― 臨検すること。
○征― 税を取り立てる。 ○竜腦― 香料の名称。
○細色― 容量が軽少で高価なもの。
○瑋瑁― ウミガメ科の亀の甲羅で、各種の装飾品に加工される。
○蘇木― 熱帯地方に産する常緑樹で、その樹皮を紅色の染料に用いる。
○麝色― 容量が重大で安価なもの。
○官市― 政府による強制買い上げ。
○準他貨与之― ここでは安価な品に準じた値で買い上げられること。
○折関― 損をして売る。 ○物貨― 交易品のこと。
○一毫― わずかなもの。 ○没― 没収する。
○科罪― 法律による罰則。 ○市舶亭― 市舶司の出先機関。
○枕水― 河に面していること。
○海山樓― 市舶司所管の建物の名称。
○五洲― ここでは(珠江の)河口デルタにあった五つの中洲のこと。
○小海― ここでは中国南部を流れる大河・珠江のこと。雲南省に発源し、広州で海に注ぐ。
○不壞― 腐敗しない。 ○広帥― 広州の地方官のこと。
○豊隆神― 神名。
- 2 この問題は、公募制自己推薦(AO型)入学試験受験者のみ解答すること。
- 3 この問題は、院友子弟等特別選考入学試験受験者のみ解答すること。

あなたが國學院大學文学部史学科に入学した場合、特に研究したいと思う主題(歴史学・考古学・地域文化と景観分野のいずれか)を挙げ、その主題についてどのように研究したいと考えているか、自分の所見を200字以内で述べなさい。

文学部 哲学科

小論文

課題図書:次の2冊のうち1冊を選択すること

- 【1】 佐藤岳詩『心とからだの倫理学―エンハンスメントから考える』(ちくまプリマー新書)
【2】 宮下規久朗『名画の生まれるとき美術の力II』(光文社新書)

問 別紙解答用紙に答えなさい。

- 【1】選択の場合
エンハンスメントをめぐる議論で扱われる、「本当の自分」あるいは「アイデンティティ」についての自らの見解を、対立する見解も考慮しつつ述べなさい。(1000字程度)

- 【2】選択の場合
選択図書では、さまざまな時代と地域(国)の芸術作品について、時代背景(文化、思想、宗教、政治、さらに今日的な世界情勢など)を含めて考察されている。作品は作家個人の意識や意図のみならず、作品をとりまく文脈によって意味を与えられる。ではそれを鑑賞する私たちはどのような作品を「名画」として位置づけるのだろうか。考えるところを述べなさい。(1000字程度)

経済学部

小論文

次の文章を読み、以下の問1～問7に答えなさい。

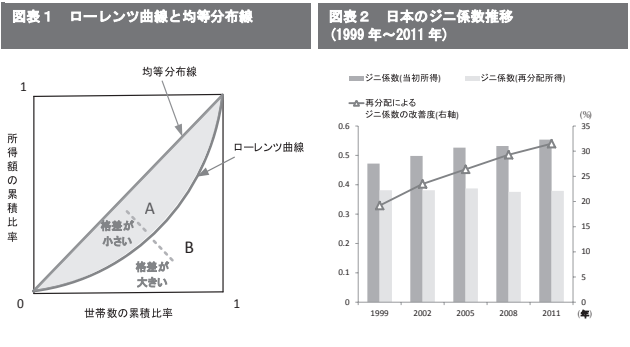
いわゆる「格差」が議論されるようになってきた背景と、そもそも「格差」はどのような数字(指標)で捉えられるのかについて解説します。また、国際的に見た日本の所得格差の状況や、格差を是正するために用いられる税や社会保障等の所得再分配機能について解説します。

1. 格差が議論されるようになった主な背景
日本社会は、高度経済成長を経験したことで中間所得層が拡大し、「一億総中流社会」などといわれたことがありました。しかしバブル経済の崩壊(1990年前後)以降は、企業は人件費等を削減するために、非正規雇用の利用を増やし、さらに(1)や年功序列の見直し、(2)の導入などに取り組みました。その結果、高収入を得られる人がいる一方で、安定収入が失われて賃金が低下してしまう人も現れるようになりました。給与を主な所得源としている世帯にとっては、給与の差が所得の差となり、それがやがて所得「格差」という表現につながった可能性があります。

日本をはじめ、ほぼ全ての先進国は資本主義経済を基本としているため、⁽³⁾企業が経済合理的な行動を取るのは当然のことです。世界的には、フランス人経済学者のトマ・ピケティが「21世紀の資本」の中で、個人が持っている不動産や株などの資産の差が、今後ますます大きな所得「格差」を生むと指摘して話題になりました。このように、日本でも世界でも「格差」が注目されるようになった背景には、個人の賃金や資産などに見過すことができない差が生じ始めたことがあるのかもしれません。

2. 格差を捉える代表的指標と日本のジニ係数推移
そもそも「格差」はどのような数字で捉えられるのでしょうか。社会における所得の不平等さを表す数字として、ジニ係数があります。ジニ係数の計算方法は、まず、世帯を所得の低い方から順に並べて、世帯数の累積比率を横軸に、所得額の累積比率を縦軸にグラフを描きます(図表1)。このグラフは下に凹の「ローレンツ曲線」といわれる形になります。全世帯の所得が等しい場合、ローレンツ曲線は原点を通る傾斜45度の直線に

一致することになり、これを「均等分布線」と呼びます¹⁾。均等分布線と縦軸、横軸に取り囲まれた面積(図1のAとB)のうち、Aの面積の割合がジニ係数です。ジニ係数は、0～1の範囲で表され、0に近いほど格差が小さく平等で、1に近いほど格差が大きく不平等な状態であることを示しています。視覚的には、ローレンツ曲線が均等分布線から離れるほど格差が大きいことを表しています。



(出所)厚生労働省「所得再分配調査」より
大和総研作成

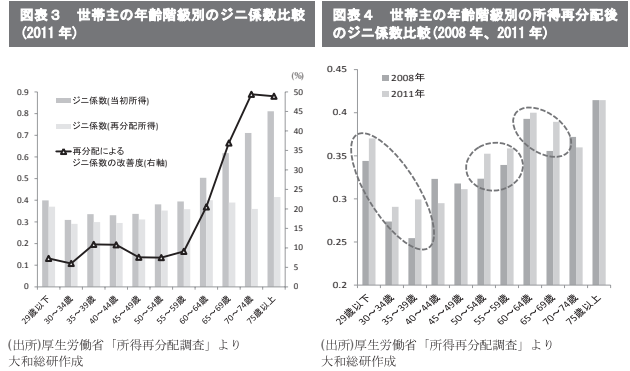
(出所)厚生労働省「所得再分配調査」より
大和総研作成

日本では、おおむね3年に一度、二種類の所得が調査(「所得再分配調査」)されています。一つは前年の所得(当初所得)を対象にしたもの、もう一つは当初所得に対して社会保障料と税を控除し、年金や医療、介護の社会保障給付を加えた所得(再分配所得)を対象にしたものです。当初所得のジニ係数には上昇傾向が見られ、2011年は0.5536に達していますが、所得再分配後のジニ係数は0.3791に改善されていることが分かります(図表2)。

当初所得は、雇用者所得、事業所得、農耕・畜産所得、財産所得などで、家内労働所得や雑収入、私的給付(仕送り、企業年金、生命保険金等)も含まれます。世帯単位で見た当初所得のジニ係数が上昇している背景には、雇用者所得が少ない高齢者世帯の増加や単独世帯の増加など世帯の小規模化といった社会構造の変化の影響があることを厚生労働省では指摘しています²⁾。一方、再分配所得のジニ係数は横ばいで推移しており、当初所得のジニ係数からの改善度は、20%程度(1999年)から30%程度(2011年)に上昇していることから、⁽⁴⁾所得再分配が有効に機能していることが分かります。

3. 日本の所得再分配機能の現状とは

次に、ジニ係数の調査対象を世帯主の年齢階級単位に移して分析します。図表3の通り、当初所得のジニ係数は60歳以上から急上昇しますが、再分配所得のジニ係数は当初所得から大きく低下し、再分配機能によって、所得格差が是正されていることが分かります。ただし、30歳未満の現役世代のジニ係数は、所得再分配後でも0.3701と高い値を示しており、現役世代に対して子育て等を支援する社会保障政策の役割が重要と考えられます。また、2008年と2011年の所得再分配後のジニ係数を比較した結果(図表4)を見ると、〔 A 〕ことが分かります。図表2のように国全体で見た場合には、〔 B 〕。内閣府では、「貧困の予防と救済」という観点から救済されるべき世代内格差の増加に触れており、さらに現在の社会保障制度は、負担は現役世代中心、受益は高齢世代中心という構造となっています。少子高齢化が進み、現役世代が減少していくいま、世代間で、受益と負担に差が生じることは避けられないため、世代間の公平性を図る必要性について指摘しています³⁾。

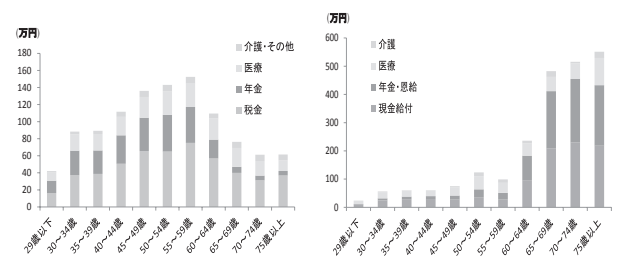


(出所)厚生労働省「所得再分配調査」より
大和総研作成

(出所)厚生労働省「所得再分配調査」より
大和総研作成

再分配の原資となる社会保障費と税の拠出額は60歳未満でピークを迎え、60歳以上は急減しています(図表5)。受給額については、逆の関係になり、60歳未満は少なく、60歳以上は急増することになります(図表6)。なお「現金給付」とは、保険料を納めることによって、病気やけがの時に疾病手当金などの保険給付を受けることができるもので、「医療」は医療サービスそのものを示すため区分が別となっています。

図表5 世帯主の年齢階級別の税と社会保障の拠出額内訳(2011年)



(出所)厚生労働省「所得再分配調査」より大和総研作成

これまで見てきたように、現役世代の所得が社会保障費と税を介して高齢層に社会保障給付として移転されることで、国全体のジニ係数が改善されていることが分かります。ただし、同じ現役世代でも若年層(30～40歳未満)と中年層(50～60歳未満)、そして一部の高齢層(60～70歳未満)の再分配後のジニ係数が上昇しており、世代内での格差が広がっている可能性があります。また、現役世代と高齢層の間で受益と負担に差が生じることは、少子高齢化が進むことによって今後も避けられない状況にあります。世代内および世代間での格差が広がらないよう、再分配機能について今後検討を行っていく必要があるでしょう。

先進諸国の集まりであるOECDの調査報告書によれば、再分配機能そのものは経済成長に必要なものと考えられていますが、さじ加減(拠出や給付の対象と額)を間違えれば、資金の浪費と非効率な経済活動を生むことにつながりかねないことを指摘しています。また格差を是正する上で重要なことは、人々に雇用を提供した上で、キャリアを見通せる環境整備に努めることに人も注意を払う必要があるとしています⁴。

菅原佑香氏(大和総研 経済環境調査部 研究員)による(一部修正)。2016年7月8日大和総研公開(https://www.dir.co.jp/report/research/introduction/economics/disparity/20160708_011053.pdf)

- 注1 厚生労働省(2011)「平成23年所得再分配調査報告書」
- 2 同上。
- 3 内閣府(2012)「平成24年度 年次経済財政報告(経済財政政策担当大臣報告)ー日本経済の復興から発展的創造へー」
- 4 OECD(2014)「格差と成長」、OECD(2008)Growing Unequal? : Income Distribution and Poverty in OECD Countries

- 問1 文章中の空欄(1)と(2)に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを以下のア～エから選びなさい。
- ア (1)終身雇用 (2)職能主義
- イ (1)株式持ち合い (2)職能主義
- ウ (1)株式持ち合い (2)成果主義
- エ (1)終身雇用 (2)成果主義

- 問2 下線部(3)に関して、経済合理的な行動とは、この文脈において、どのような状況に対してどのように行動することを指すのか、50文字以内で説明しなさい。

- 問3 下線部(4)に関して、所得再分配が有効に機能しているとは具体的にどのような状態を指すのか、図表2や文脈を考慮しながら200文字以内で説明しなさい。

- 問4 本文中の空欄〔 A 〕には、年代ごとのジニ係数について図表4から読み取れる内容が入る。文脈を考慮して、適切な文章を80文字以内で考えて書きなさい。

- 問5 本文中の空欄〔 B 〕には、図表2と図表4を比較することで読み取れる内容が入る。文脈を考慮して、適切な文章を80文字以内で考えて書きなさい。

- 問6 本文中、ジニ係数は世帯数と所得それぞれの累積比をもとした指標であると説明されている。このことに関して、仮に全ての国民の所得が10%改善した場合を想定し、以下の設問に解答しなさい。

- (1) ジニ係数はどのように変化するか。40文字以内で説明しなさい。
- (2) 現実にはどのような変化が生じていると考えられるか。100文字以内で解答しなさい。
- (3) (1)・(2)に基づき、ジニ係数という指標を60文字以内で批判的に評価しなさい。

- 問7 あなたの周りにある「格差」を1つ取り上げなさい。その格差がどのようなものであるか、何を原因として発生しているか、それを解消するためにはどのような手段が考えられるか、それぞれについてあなたの考えを400文字以内で述べなさい。

人間開発学部

小論文

- 1 以下の文章を読み、後の問1～問2に答えなさい。

AIと人間の囲碁棋士の5連戦——2016年に行われたグーグル・ディープマインドチャレンジマッチは、開始早々AI側「アルファ碁」の3連勝。4戦目では人間が一矢報いたものの、最終戦はアルファ碁が取り、4勝1敗と堂々のAIの勝利となった。

人間側のイ・セドル九段は現役最強の棋士とされていただけに、その衝撃は大きかった。それも当然で、1997年にチェスでコンピュータが人間の最高峰を破った後も、囲碁では人間に歯が立たなかったからだ。アルファ碁が出てくるまで、囲碁でコンピュータが勝つにはまだ10年かかるとも言われていた。

オセロやチェスなどのゲームではコンピュータの力業で手を読む方法が使えたので、技術進歩で計算力が上がることによりAIが勝てるようになった。しかし将棋より1兆倍を14回繰り返すほど複雑と言われる囲碁には、力業は通用しない。プロ棋士は直感で盤面の良しあしがわかるが、コンピュータには計算力はあっても直感力はなかったからだ。

そこでアルファ碁ではニューラルネットワークという技術で、いわば人間の直感を身につけさせた。ニューラルネットワークは「神経回路網」という言葉通り、人間の脳をまねる技術だ。

アルファ碁を開発した英国のディープマインド社は、ここにさらに強化学習という手法を組み合わせた。経験から学習できるので、人間の棋譜を学ばせた後は自らのコピーと延々と戦わせ、その切磋琢磨で独自の定石を開発するまでに至ったわけだ。

4戦目で負けたことも経験として学習される。AIの癖に人間が慣れたから4戦目以降は勝てる、というほど単純ではない。従来の決定論的プログラムとは概念から異なるので、学習後の神経網を解析しても、開発者でさえなぜ勝っているかはっきり説明できないというくらいだ。

直感力を身につけたという意味では人間と同じだ。むしろAIが人間に対して圧倒的に有利なのは、他のことを考えないことだろう。脳の神経回路網はコンピュータよりはるかに複雑だが、イ九段といえども脳の大部分はその日の食事のことから家族のことまで——現実世界を生きるという囲碁よりはるかに複雑なゲームのために占められている。

仕事特化で考えるなら、AIの能力は人間より優秀になり得る。しかも

イ九段がいくら優秀でも一人きりだが、アルファ碁はいくらでもコピーできる。自動運転にしろ、多くの専門職種がAIに取って代わられると予想されるのもそのためだ。

いつか「その日」は来る。しかしもう少し余裕はあると思っていた。アルファ碁の勝利はその日が意外と近いことを示している。その日に合わせて社会の枠組みを変えられるか——社会を変えるゲームはまだ人間だけで戦わざるを得ない。

勝てるのは10年後という予想を覆し、人間の現役最強プロに堂々勝利した囲碁AI「アルファ碁」が2016年に大きく取り上げられ、その頃からAIの急激な進歩に注目が集まり始めた。もちろんまだAIが人間を超えたとは言えないが、どんな分野でもその分野を狭く限定すれば、人間より優秀になり得ることが示されたというのも、また事実だ。

例えば自動車の運転。人間は運転ミスや体調不良などにより相次いで重大事故を起こしている。法制度を含むいろいろな問題はあるにせよ、いまだ年間3千人以上の死者という悲劇を確実に減らせる自動運転技術があるのに、それを導入しないのは不合理だろう。

2016年に発表された米ボストン・ダイナミクス社のビデオでは、人型ロボットが人間でも転びそうな雪道を歩き、倒されても自力で起き上がり、狭いスペースで腰をひねって重い荷物を棚に持ち上げている。ネットを見ると、これを見た多くの人が、自動運転との組み合わせによる宅配無人化という未来を予感したようだ。2019年に発表されたものではさらにスムーズにものを運んだり、飛び跳ねたりしている。

米国ではすでに裁判記録から類似の判例を探すような弁護士助手の仕事や、スポーツ記者の仕事など実務の一部がAI化されてきている。2016年には、英最大の国営銀行であるロイヤル・バンク・オブ・スコットランドが、顧客対応にAIを導入することで投資コンサルタントを含む職員550人を解雇する方針であることが明らかになった。オックスフォード大学の研究者が「あと10～20年程度で米国の総被雇用者の約47%の仕事が自動化される可能性がある」という研究結果を発表して話題を呼んだのは、2013年のことだ。

AIに限らず、ICTの進歩が経済や社会を大きく不可逆的に変え始めている。脱却できないデフレ傾向も、その根底にはICTの進歩による社会プロセスの全面効率化がある。飛行機のビジネスクラスが進歩して快適になればファーストクラスが減っていくように、結果として十分と思えるサービスレベルにかかるコストが最適化されて無駄がそぎ落とされ、その分経済が小さくなるのは避けがたいからだ。

ICTの進歩と経済のグローバル化により景気循環が消滅し、インフレーションの起きない経済成長が続くとした「ニューエコノミー」は眉唾だった。しかしICTの進歩が過去的前提を変えるというその考え方自体は、間違っていないかったようだ。今度の「ニューエコノミー」は、職がなくなることも含め決してバラ色ではない。しかしそれだけにリアルだ。

これからは十数年で社会が大きく変わる。しかし、義務教育でのプログラミング教育の導入一つとっても、英国では2014年に開始したが日本ではやっと2020年からだ。

社会人再教育の強化も喫緊の課題だ。今後、失われる職もあれば生まれる職もあり、職のミスマッチはますます激しくなる。再教育とセーフティネットの制度整備をしない、つまり「変われない」なかでのなし崩しの人材流動化では、多くの悲劇が生まれるだろう。

そして、生まれる職があるとはいえ失われる職のほう量が量的に多い可能性は高い。「負の所得税」や「ベーシックインカム」も視野に入れるしかない。そうなれば、具体的な職のない人たちは何をするか。そのときには、チャレンジが容易な時代というのが鍵になる。

アイデアをすぐ形にして社会に出せる時代を実現したのもICTの進歩だ。例えばフェイスブック。ハーバード大学の一学生が学生寮の一室で始めたサービスが、たった7年で時価総額評価が米ボーイング社を追い抜いた。

今やイノベーションは進化論の世界だ。成功は1000回に数回ともいわれ、投下資本の大小を含め、イノベーションを達成する確実な手段など存在しない。重要なのはチャレンジの多さだけ。そしてAIが人間に最後まで勝てないのがイノベーションだ。やるべきことに最適化するのはいAIにできても、何をやりたいかを見つけることは、人生や欲望を持たないAIにはできないからだ。

堅実な生産はAIと一部の人間に任せ、不確実なイノベーションのため

にベーシックインカムで支えられたその他大勢が日々チャレンジを繰り返す。そしてイノベーションを達成できた人が財源を支える。ごく少数しか成功しないが、成功すれば大きく、その儲けで後進のチャンレンジャーを支えるというのは、考えてみれば芸能事務所のようなモデルだ。社会全体が芸能事務所のようになる——非現実的に思える未来だが、ありえない未来ではない。

日本は「変わるる国」になれるのだろうか。アルファ碁が10年の予想を一瞬で飛び越えた例を見ると、それが問われる日は意外と早くやってくるうだ。

(坂村健『イノベーションはいかに起こすか』より引用)

(注)原書は縦書きであるがここでは横書きとしている。また、文章中の小見出しおよび動画参照URLは省略している。

- 問1 文章では、現時点でのICTやAIと人間の間にある特徴の差異・優劣についてどのように述べられているか、300字程度で説明しなさい。

- 問2 ICTやAIの急激な進化が社会に及ぼしている影響について本文で述べられていることを整理した上で、今後人間はさらに進化するAIをどのように活用し、共存していく必要があるか、あなたの考えを700字程度で論じなさい。

令和5年度 神道・宗教特別選考(Ⅰ期)

神道文化学部

小論文

- 問一 (神道特別選考受験者のみ解答すること)

次の文章を読み、著者の説く「道」に対する考え方を二〇〇字程度に要約した上で、「祀職(神社の神職)」を代々継ぐことの意義と神職が神に仕えることの意義について、著者の考え方にも触れながら、自らの考えを八〇〇字程度で述べ、全体で一〇〇〇字程度となるように記しなさい。

先日、同郷の大先輩某氏がめでたく神職身分の特級に叙せられたお祝いの会に列席した。陽気の遅い今年の春に珍しく晴朗の一日で華美を控えた祝宴の爽かさに私もつい盃を重ねすぎて柄にもなく酔い痴れる始末であった。

さて、その席で祝辞を許された時、はからずも私が大先輩に献呈した言葉は「道の父」という表現であった。当のご本人には後で身に過ぎた讃辞と軽くお叱りをこうむったが、私自身は決して大袈裟な言葉だとは今も思っていない。事実を素直にそう言ったまだからである。

だが考えてみると、よき諸先輩に恵まれていることでは自分こそ身に過ぎた幸運としなければなるまい。なぜか片田舎の社家に生まれて、物心ついた頃には人並みに祀職を継ぐことを考えあぐねたことも多くあった。戦後の神も仏もないといった風潮の中で、神に仕え祭に奉仕することに嘘も偽りもない生き方が果して自分に行えるのか一当時はこんな事で悩むはずもない友人にも教師にも問いかけるわけにもゆかず、読書に訴えるほかは秘かに思い悩むだけであった。

そんな若い時代に、時たま酒席帰りの父に同道して私の家に立ち寄ることがあった某氏は、あたかも父親に代って生意気な質問にも真顔で受け応えてくれたものである。酒脱で知られる同氏は、連れの座興を上手に取りしきりながら、およそ興覚めな若輩の発言にも唯一人まともな言葉を返してくれるのであった。

座興には酒の勢いで冗舌になる私の父も、やはり典型的な日本の父親だから、あるいは計算ずくなのか自分の継がすべき道についてとんと息子を諭す気配がない。酒を飲んだ説教は正座させられて随分聞かせられたものだが、肝心の神社や神道について実のある話を聞いた覚えが

ない。勉強の方も進学の方も陰で心配することはあっても、本人の前では「ああそうか」と言うばかりで、強いてこうしろと命じることはなかった。

だが有難いことに、父が日頃同志とも頼む当時気鋭の神職が少なからず私の家にも立ち寄ってくれて、時に酒の勢いには正直閉口することもあったが、それでも喧嘩腰で議論に付き合ってくれる先輩には恵まれていた。その意味では、それこそ道の兄とも敬愛する先輩も数えれば数人を下らないが、世代と見識の差からして「道の父」とも頼む人は、某氏を措いて他にない。

しかし、だからといって父や兄とする諸先輩からこれこそ神の啓示というほどの有難い言葉を頂戴した記憶があるわけではない。戴いたのかも知れぬが、未熟な心に響かなかったということもある。

いずれにせよ所詮、道は歩むもので、言葉に聞いて分かるものではないということであろう。自分の足で探し求め、自分の心に聞いて自から踏み固めるべきが「道」であって、先輩が歩んできた道をそのまま安易に辿ると考えること自体が誤りということに尽きる。道は出来合いの与えられるものでは決してない。求めて止まぬものが自から道を成す一。祀職を継ぐ者に許される道の信仰とは、ぎりぎりの処そうしたものにちがいないとは、ようやく大学を出る頃の心境であったと思う。

こうして道の父とも兄とする諸先輩に恵まれた自分を想う時、今は身の回りに道の弟とも妹？ともすべき後輩たちが居ることに気付く。また彼らの中には、私の言葉を頼りに新しく祀職に就く者さえある。

神道という道は日本人誰しもの道として、社家であろうとなかろうと要は志の問題と思うが、今後さらに厳しい状況の中で、決して多勢とは言えない祀職の後輩たちには、せめて私のように「道の家族」に恵まれて欲しいと思う。

（蘭田稔『誰でもの神道―宗教の日本的可能性』より
「道の家族」に基づく）

問二 （宗教特別選考受験者のみ解答すること）

次の文章を読み、日本人の宗教のあり方を説明することのむずかしさとその理由について著者が述べていることを二〇〇字程度に要約した上で、自分が連想する具体的な事例を補いつつ、自分の考えを八〇〇字程度で述べなさい(全体で一〇〇〇字程度)。

まだ戦後の余韻の残る一九五一年に東京の下町で生活調査をこころみたR・ドーアは、三百世帯千二百人あまりの住人のうち、「自分はキリスト教または仏教の信者である」という意識をはっきりもっている者の少なさについてのべている（『都市の日本人』岩波書店、一九六二年）。ふだん仏壇の礼拝をおこなう人に死後の魂のゆくえを尋ねると、約三分の一が「死んだらお終いだ」と答え、「分からない」をふくめると半数近くが死後の魂の生存に否定的もしくは懐疑的な意見をもっていた。もし人間が合理的なものなら、礼拝の対象が存在しないという矛盾はみられないはずだがとドーアは註記している。もう一つの例を一九七八年の「国民性の研究」にみてみよう(林知己夫・米沢弘『日本人の深層意識』NHKブックス、一九八二年)。「宗教についてお聞きしたいのですが、たとえば、あなたは、何か信仰とか信心とかを持っていますか」という質問にはおよそ三分の一が信じていると答えるにすぎないのに、「宗教的な心というものを大切だと思えますか」という問いには八割をこえる回答者が大切に思うと答えている。いいかえれば、信仰や宗教に自分がコミットしていると自覚している者の数は多くはないのに、そうした宗教的な心のあり方にたいしては大多数が高い評価を与えていることになる。

こうした日本人の宗教のあり方について、これまでいく人もの論者が説明をこころみてきた。近年の阿満利磨『日本人はなぜ無宗教なのか』(ちくま新書、一九九六年)は、自然宗教と創唱宗教の対比をてこに「無宗教」という名の宗教心とでもよぶべきものが見いだされることを説いている。宗教といえば教祖・教典・教団をもつ創唱宗教をイメージしがちであるが、自然発生の宗教＝自然宗教という対比的なあり方を考慮しないと、日本人の宗教的態度は分からないと指摘した。さかのぼって先に引いた林・米沢は、自分たちの調査データから、自覚的な日常の宗教行動を尋ねた場合と習慣的な行事なりお祭りなりも含めた場合とでは、回答に有意の落差のあらわれることにふれて、「行事としての宗教」はおおむね慣習的行為と受けとめられていて、宗教行為としての意識化やその意味の自覚がはかられていないことに注目した。さらにさかのぼると、冒頭の

ドーアの例や祭りや民間信仰をひきあいに出しながら、日本の宗教がキリスト教のような信仰箇条を軸とする視角からはとらえきれないことを「信仰のない宗教」と名づけた例がある(柳川啓一「信仰のない宗教」一九七四年『現代日本人の宗教』所収、法蔵館、一九九一年)。これらはいずれもある認識を共有している。欧米の宗教理念がそうであるような、キリスト教をモデルにした宗教のとらえ方では、われわれの宗教事情をうまく把握できにくいことである。

ならばキリスト教をモデルにした宗教のとらえ方とは何か。ここまでの文脈では、唯一神やその神観念に焦点があるのではなく、行事としての宗教や信仰なき宗教といわれる日本的現実にたいして、つねに行事と信仰の体系として宗教をとらえる見方のことである。英語でいえばビリーフ(信)とプラクティス(行)の二分法は、注意してみるとフレイザーやデュルケムらの宗教の定義にも出ている。この二分法のセットとしての宗教観にはつよい引力があるらしく、これを受容して一世紀ほどしかたっていない日本でも、宗教ならぬ呪術の定義にまであらわれてくる。たとえば『宗教学辞典』(東大出版会、一九七三年)の「呪術」には「何らかの目的のために、超自然的存在(神、精霊その他)あるいは呪力の助けを借りて、種々の現象をおこせようとする行為およびそれに関連する信仰の体系」とある。問題は行為と信仰の体系といってしまうと、その行為の意味づけがあったかも神学的言説のように体系的に用意されているかのような印象を与え、慣習的反復のもつ本来の非言語性・非意味性が見えにくくなるところにあった。

今なら分かるのだが、ビリーフとプラクティスのセットを用いながら、すでに七〇年代初頭の社会史的な仕事には、われわれの宗教事情をよりよく理解するヒントがあった。

今日われわれは宗教をプラクティスよりはビリーフとしてとらえている。行動様式よりは信仰箇条とのかかわりで定義しうるものと見ている。けれどもそれが多くの未開宗教に妥当しないのと同じに、中世の民衆カトリシズムにはあてはまらない。聖書や教会教義にかんする農民の知識はごくわずかだった。教会が大切であるのは、定式化された信条ゆえでなく、その儀礼がかれらの人生において重要な出来事とむすびついていたらである[洗礼・結婚・死]。……宗教とは儀礼的な生活様式であって、ドグマのセットではなかった。(K・トマス『呪術の衰退と宗教』一九七一年、邦訳は法政大学出版局、一九九三年)

ここで定式化された信条とは「われ信ず」の命言に代表されるような、言説化された命題的信仰のことである。ドーアの例では「死後の魂の生存を信ずる」と表記することがそれにあたる。いっぽう儀礼的な生活様式とは、とりたてて言葉で説明することのない生活世界に埋め込まれた慣習的行為の集積のことであり、仏壇の礼拝はその一つである。この見方にたてば、日本の宗教的現実の分かりにくい部分は、むしろ西欧近代の「宗教」概念の特殊性のほうにこそあると言いたくなる。

たしかに半分はそれとおりであって、生活世界がすそ野に広がる慣行の集合体から「信仰の体系」として宗教群を数えるようになったのは、十八世紀啓蒙期以降であるにもかかわらず、そのつよい普遍主義的傾向によって日本をふくめた非西欧圏の生活世界の一領域は「宗教」として切り抜かれてきたのだった。しかしそれだけならば、いわば切りとった側の反省と切りとられた側の抵抗――七〇年代末のE・W・サイードの『オリエンタリズム』(平凡社ライブラリー、一九九三年)とイラン革命以後の二〇年間、自壊的な激しさで進んでいる反・普遍主義の流れ――でことは治まるはずである。そうならないややこしいいきさは、残りの半分の理由にあった。すなわち受容する側もまた、近代という大きな物語のなかで西欧理念の普遍主義をかくあるべき普遍として受けとめてきた事情があった(文明化と近代化)。この点に、K・トマスややるか以前のL・フェーブル描くところの前近代の宗教像から、われわれが自己理解のヒントを得ることのむづかしさがあっただろう。ヨーロッパ前近代と日本近代を並列することへの心理的抵抗も無視できないが、それ以上に、われわれ自身が足下の生活世界から離床したところに理念世界をつくり、この理念のほうへと現実を組織しようとしてきたからである。(『春秋』393号掲載 関一敏「比較宗教学事始め㊹―完 日本近代と宗教」より)

令和5年度 学士入学・一般編入学

文学部 日本文学科

専門科目

次の文章は、内大臣が母の大宮の邸を訪れ、娘の姫君(雲居の雁)とともに琴を弾きつつ語っていたところに、甥の冠者の君(夕霧)が訪れる場面である。内大臣は、姫君を入内させようと考えているが、冠者の君が姫君に心惹かれていることを知らない。これを読んで後の問いに答えなさい。

「こなたに」とて、御几帳⁽¹⁾隔てて入れたてまつりたまへり。^(a)をさをさ対面もえたまはらぬかな。などかく、この御学問のあながちならむ。才のほどよりあまりぬるもあぢきなきわざと、大臣も思し知れることなるを、かくおきてきこえたまふ、やうあらんとは思ひたまへながら、かう籠もりおはすることなむ心苦しうはべる」と聞こえたまひて、「時々は^(b)異わざしたまへ。笛の音にも古ごとは伝はるものなり」とて、御笛奉りたまふ。いと若うをかしげなる音に吹きたてて、いみじうおもしろければ、御琴どもをばしばしとどめて、大臣、拍子^(c)おどろおどろしからずうち鳴らしたまひて、「萩が花ずり」などうたひたまふ。「大殿も、かやうの御遊びに心とどめたまひて、いそがしき御政どもをばのがれたまふなりけり。げに、^(d)あぢきなき世に、心のゆくわざをしてこそ、^(e)過ぐしはべりなまほしけれ」などのたまひて、御土器まゐりたまふに、暗うなれば、御殿油まゐり、御湯漬くだものなど、誰も誰も^(f)聞こしめす。姫君はあなたに渡したてまつりたまひつ。しひてけ遠くもてなしたまひ、御琴の音ばかりをも聞かせたてまつらじと、今はこよなく^(g)隔てきこえたまふを、「いとほしきことありぬべき世なるこそ」と、近う仕うまつる大宮の御方のねび子どもささめきけり。

大臣出でたまひぬるやうにて、忍びて人にもものたまふとて立ちたまへりけるを、^(h)やをらかい細りて出でたまふ道に、^(h)かかるささめき言をするに、あやうなりたまひて、御耳とどめたまへば、わが御上をぞ言ふ。「かしこがりたまへど、人の親よ。おのづからおれたることこそ出で来べかめれ。子を知るはといふは、そらごとなめり」などぞつきしろふ。あさましくもあるかな。さればよ、思ひよらぬことにはあらねど、いはけなきほどにうちたゆみて、世はうきものにもありけるかな、と、けしきをつぶつぶと心得たまへど、音もせで出でたまひぬ。御前駈進ふ声のいかめしきにぞ、「殿は今こそ出でさせたまひけれ。いづれの限におはしましつらむ。今さへ⁽³⁾かかる御あだけこそ」と言ひあへり。ささめき言の人々は、「いとかうばしき香のうちそよめき出でつるは、冠者の君のおはしましつるとこそ思ひつれ。あなむくつけや。後言やほの聞こしめしつらむ。わづらはしき御心を」と⁽⁴⁾わびあへり。

(『源氏物語』)

(注)○大臣も思し知れる― ここでの「大臣」は冠者の君の父(光源氏)。○「萩が花ずり」― 催馬楽「更衣」の一節。○大殿― 光源氏。○人に― ここでの「人」は大宮の邸に仕える女房のひとり。○かい細りて― 身を細めて。○おれたること― 愚かなこと。○子を知るは― 親ほどにその子をよく知っているものはいない、の意。○つきしろふ― 肩などをそとつつき合う様。

問一 傍線部(a)・(c)・(d)・(f)・(g)を現代語訳しなさい。

問二 傍線部(b)の内容を具体的に答えなさい。

問三 傍線部(e)を品詞分解し、各語について文法的な説明をしなさい。
【例】聞か(動詞・カ行四段・未然形)せ(助動詞・使役・連用形)たてまつら(動詞・ラ行四段・未然形)じ(助動詞・打消意志・終止形)

問四 傍線部(h)の具体的内容を示す箇所を二〇字以内で抜き出した上で現代語訳しなさい。

問五 波線部(1)・(2)の「隔て」という言葉に示される内大臣の意図を、それぞれ人間関係をふまえながら一五〇字以内で説明しなさい。

問六 波線部(3)は具体的にどのようなことを指すのか説明しなさい。

問七 波線部(4)の理由を一三〇字以内で説明しなさい。

文学部 史学科

専門科目

問題 次の1～6の中から2つを選んでそれぞれ1200字以内で説明しなさい。解答は別紙解答用紙に記入すること。選択番号を記入のうえ、解答用紙1枚に1問を解答し、2枚を提出すること。(各50点)

- 4世紀後半の高句麗の南下策が倭に与えた影響
- 日本古代における仏教導入とその後の展開
- 江戸幕府の都市政策の変遷
- 魏晋南北朝時代の政治と文化
- 5世紀から15世紀までの中東欧とバルカン地域における諸国家形成
- 「エルニーニョ現象」と「ラニーニャ現象」の特徴と世界の気候への影響

文学部 哲学科

専門科目

問1 次のA、Bいずれかを選び、500～600字で論じなさい。

A カントは近代の「自由」の哲学を打ち立てた哲学者だが、「定言命法」について語っている。「有無を言わずに従うように命じる法則」という意味だ。カントによれば、これに従うことこそ自由の核心をなすことになる。「問答無用の命令に従うこととしての自由」―それはどのように可能になるか。「自律」「自粛」といった言葉も考慮に入れつつ、あなたの考えを述べなさい。

B 「言葉とイメージ」の関係について、「Ut Pictura Poesis」(詩は絵画のごとく、絵画は詩のごとく。詩は言葉の絵、絵は無言の詩)との古来の謂いがある。これについて具体的に説明しなさい。

問2 次の項目のうち、2つを選び、それぞれ120～200字で説明しなさい。

- 形而上学
- ジェンダー
- 部派仏教
- ルネサンスと遠近法
- ジャポニズムと版画
- シュルレアリスム

神道文化学部

小論文

問 次の文章を読み、「日本文化」とはどのようなものかを二〇〇字程度で要約したうえで、筆者が指摘する「日本文化の継承」について自身の意見を述べなさい。(全体で八〇〇字以上、一〇〇〇字以内にまとめること)

それでも歴史を通して日本文化としての特徴を見出せそうなものが、しっかり取りだせそうに感じるのはどうしてであろうか。宗教を例にとってみよう。神道は歴史的に非常に複雑な形成をたどり、現在の神道も日々変化の中にある。神社に行けば日常的に目にすることのできる絵馬も、注意深くみると、日本語ではなく、英語、中国語、韓国語など日本を訪れたであろうさまざまな国の人の言葉で書かれたものがある。二〇一五年に対馬の神社を調べたときには、半数ほどハングルで書かれた絵馬が奉納された神社があって驚いたことがある。それでも神社が伝えてきた儀礼やそこでの信仰形態には、やはり「独自の」と表現してよさそうなものが脈々と受け継がれているという見方は根強い。

では日本文化は独自のものであるという考え方の、どこが挑戦を受けているであろうか。確かに独自のものはあらゆる領域に見いだされそうである。ただし文化はモノを構成要素に含んでいるが、モノだけで成り立ってはいない。そこに昔から大きな岩があったという具合に、ある文化がずっとあったとはなかなか言い難い。モノの部分にあまり変化がなくても、モノを扱う技術やモノに関連した観念は時代とともに変わっているからである。この点が日本文化固有論の落とし穴になりがちである。

個人や社会というのは特定の時間の流れの上に存在している。個人はあるときに生まれ、あるときに死ぬ。日本の戦後社会は一九四五年八月の敗戦の後の話である。これに対し文化は時間の流れと無関係ではないものの、その制約がかなりゆるやかである。だから時期を定めずに日本文化について論じられたりする。「現代に残る江戸文化」というような視点も可能である。それゆえ、つい大きな岩がずっとそこにあったように、ある日本文化がずっと列島にあったように想定しがちである。

ずっと継承されてきたかどうかは、継承の道筋を確かめてみてからのことである。実際に連続性が見いだされたときにはじめて、それは日本文化として継承している要素だったのではという可能性が検討される。漢字は中国から古代に受容され、字体に多少の変化は生じたとしても、以後それを一貫して用いていることが明らかだから、漢字文化は長く日本文化を支える重要な要素となったと言える。死んだ人の体をどう処理するかは葬法に関わる文化の問題であり、死後の世界の観念とも深く結びついている。現代日本では圧倒的に火葬である。では火葬が死者を葬る一貫した日本文化のあらわれと考えられるか。近代以前は土葬が主流であり、古代には屈葬などもあった。屈葬は今は見られないから、日本の葬法に関わる失われた文化である。

神道なども時代によって神観念も相当異なる。明治政府の神仏分離政策により、現在では神と仏は別のものとして扱われるが、神仏習合時代にはその区別はきわめて曖昧であった。仏教が受容された頃は、仏は神の一種として理解されていたようである。

つまり日本文化の基層は変わらないというような前提は、多くの事例を集めてから初めてその可能性を検討できるようなことである。すでに今の研究段階で、日本文化は時代により大きく異なり、廃れたものも多く、そして時代とともに新しく付け加わった要素は数知れないことが分かっている。古代から現代に至るまでかなり長い時間にわたって継承されてきたと言えるものは、漢字文化――しかもこれは外来の文字――とか、稲作儀礼の文化――これも外来のイネに依存したもの――とか、かなり限られてくる。

〈日本文化〉について考えようとするとき、このことははっきり認識なくてはならない。ある一定の原型をもったものが、時代の変化とともに表面上の変化をこうむったが、日本文化の本質は変わらないというような考えはもはや成り立ちそうにない。なによりもルーツが一つではないし、複数のルーツの関係もまだまだこれから解明が進められるという段階である。列島で独自の文化が形成されたといっても、表面部分とは言えないようなところでも、他の文化の影響を受け続けたのはあきらかで

ある。現代日本の宗教の多様性は、そのことを現在進行形で、かつきわめて広範に示してくれている。

(井上順孝ほか『〈日本文化〉はどこにあるか』より「はじめに 複雑な渦の中にある〈日本文化〉」に基づく)

法学部 法律学科(法律専攻)

教養科目

次の英文は、1963年8月28日にMartin Luther King Jr.によって行われた“I Have a Dream”Speechと呼ばれる演説文の一部である。この文章を読み、問1から問5に答えなさい。(本文は著作権の関係で省略)

問1 下線部(1)のdecreeの一部が記述されている文章が次の①～④の中にある。それはどれか。適切な選択肢を選んだうえで、下線が引かれている部分を日本語に訳しなさい(選ばなかった選択肢については翻訳する必要はない)。(選択肢①～④は著作権の関係で省略)

問2 下線部(2)のpromissory noteとは一般的には約束手形を意味するが、ここでは比喩として用いられている。実際にはどのようなことを意味しているのか。日本語で答えなさい。

問3 問2のpromiseは履行されているのか。そのことが示されている一文を日本語に訳しなさい。

問4 下線部(3)および(4)のcheckの意義について以下の①と②に答えよ。
①下線部(3)はa bad checkとされているが、badであったためどのような結果が生じたとされているか。日本語で答えなさい。
②下線部(4)のthis checkに関しては、行使するどのようなことが生ずるとされているか。日本語で答えなさい。

問5 下線部(5)を日本語に訳しなさい。

経済学部

教養科目

(著作権の関係で問題の掲載を差し控えます。)

令和5年度 外国人留学生

文学部・神道文化学部

日本語小論文

問 次の文章を読み、筆者の「精神分析」についての説明を踏まえた上で、「精神分析」について、あなたの考えを論述しなさい。

ただし、次の条件を守ること。
一、三段落ないし四段落にすること。
二、文章は「～である。」「～だ。」調で統一すること。ただし、引用はこの限りではない。
三、字数は九〇〇字以上、一〇〇〇字以内にすること。

精神分析と聞いて、どういいうものかイメージが湧く人は少ないでしょう。「エディプス・コンプレクス」という父殺しのテーマが有名ですが、最近はそれもあり言われなくなりましたし、若い世代にとっては馴染みがないと思います。

精神分析家は医者ではなく(同時に精神科医である場合もあります)、医療の制度とは独立に、精神分析という独自の実践として行われているものです。それがフランスでは今でも盛んですし、実は日本にも精神分析家はいます。

ひとことで言って、精神的な考え方にコミットすることは、人間には無意識があるという人間観を持つことです。この無意識とは何なのか、自然科学的な脳研究ではまだ結論が出ていません。ですから否定も肯定もされていない仮説です。

無意識とは、自分自身が意識的に「こういう理由でカツカレーを食べたい」とか、「こういう理由で誰かと付き合いたい」と思っていることの背後にあるとされる、はっきりそう言語化して捉えることができないような深いロジックの次元を指しています。

たとえば、誰かをいじめている人がいるとして、嫌いだからいじめているというのが表面的な次元ですが、実はその人物のことが気になっていて、好意があるからこそいじめている、というのがひとつの解釈としてありうる。こうしたことは同意してくれる読者も多いと思います。こんなちょっとした例がすでにして精神分析です。つまり、愛と憎しみが裏腹の関係にあって、愛するからこそ憎むとか、また逆に愛の背後に憎しみがあるととか、そういうのが無意識の作用なのです。

そもそも自分のなかに逆説があるなんて認めたくない、という人もいると思うし、実際にそれは自己のコントロールに疑いを向けることですから、イヤなわけです。ところが、ひじょうに重要なことに、精神分析とは、自分自身でそれを引き受けて考えるのがイヤなものだ、というところがポイントなんです。ひじょうに不愉快な考え方なんです。

そういうこともあって、精神分析には多くの反発が寄せられます。たとえば「そんなものは科学的に証明されていない」というのは中立的な反発に聞こえるかもしれませんが、そのなかにはそもそも精神的な裏腹の心理を自分自身で引き受けたくないという反発—これを精神分析の用語で「抵抗」と言います—が含まれている面もあるのです。精神分析に対する批判を百パーセント抵抗だとは言いませんが、抵抗の部分もある程度あるだろうと言えると思います。

(千葉雅也『現代思想入門』に基づく)

※エディプス・コンプレクスー 精神分析学のフロイトが用いた語。男の子が無意識のうちに同性である父を憎み、母を性的に思慕する傾向のことをいう。

法学部 法律学科(法律専攻)

日本語小論文

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

2004年夏、メキシコ湾で発生したハリケーン・チャーリーは、猛烈な勢いを保ったままフロリダを横切って大西洋へ抜けた。22人の命が奪われ、110億ドルの被害が生じた。チャーリーは通過したあとに便乗値上げをめぐる論争まで残していった。

オーランドのあるガソリンスタンドでは、一袋2ドルの水が10ドルで売られていた。8月の半ばだというのに電気が止まって冷蔵庫やエアコンが使えなかったため、多くの人びとは言い値で買うより仕方なかった。木々が吹き倒されたせいで、チェーンソーや屋根修理の需要が増加した。家の屋根から2本の木を取り除くだけで、業者はなんと2万3000ドルを要求した。小型の家庭用発電機を通常は250ドルで売っている店が、ここぞとばかりに2000ドルの値札をつけていた。老齢の夫と障害を持つ娘を連れて避難した77歳の婦人は、いつもなら一晩40ドルのモーテルで160ドルを請求された。

多くのフロリダ住民が物価の高騰に憤りを隠さなかった。『USAトゥデ

イ』紙には「嵐の後でハゲタカがやってきた」という見出しが躍った。ある住民は、屋根から倒木一本をどかすのに1万500ドルかかると言われ、「他人の苦境や不幸を儲けの種にしようとする」連中は間違っていると語った。フロリダ州司法長官のチャーリー・クライストも同じ意見で、「ハリケーンの後で困っている人の弱みにつけこうとする人間の欲深さには、驚きを禁じえない」と述べた。

フロリダ州には便乗値上げを禁じる法律があるため、ハリケーン・チャーリーの直後には司法当局に2000件を超える苦情が寄せられた。なかには裁判で勝訴を勝ち取ったものもあった。

ところが、クライストが便乗値上げ禁止法を執行した時でさえ、一部の経済学者はその法律や一般市民の怒りは見当違いだと論じていた。

自由市場を信奉する経済学者のトーマス・ソーウェルはこう論じた。水、ボトル入り飲料水、屋根の修繕代、発電機、モーテルの部屋代などが通常よりも高いおかげで、こうした商品やサービスの消費が抑えられるいっぽう、はるかな遠隔地の業者にとってハリケーンの後で最も必要とされている商品やサービスを提供するインセンティブが増すことになる。8月の猛暑のさなかの停電で困っているフロリダの住民に、水が一袋10ドルで売れるとなれば、製氷会社はどんどん増産して出荷するのが得策だと気づくはずだ。こうした価格にならな不公正なところはなく、フロリダの住民のためになるのだ、と。

(マイケル・サンデル 著・鬼澤忍 訳『これからの正義の話をしよう』に基づく)

問1 司法長官クライストをはじめとした便乗値上げに反対する意見について、この意見を主張する立場になってあなたなりに発展させた意見を300字程度で述べてください。

問2 ソーウェルら一部の経済学者の便乗値上げ禁止法を批判する意見について、この意見を主張する立場になってあなたなりに発展させた意見を300字程度で述べてください。

問3 問1、問2での解答内容を踏まえた上で、あなたとしてはこの災害後の値上げを肯定するか批判するか、あなたの考えを400字程度で述べてください。ただしその際には、問1または問2で逆の立場であなたの述べた意見に対して、きちんと反論してください。

神道学専攻科

令和5年度

国語総合

次の文章を読んで、後の問一～七に答えなさい。

単に神社が残ったということだけを捉えて「*やはり神道は⁽¹⁾言挙げしないのが相応しい」ということを読んで覚えていた人がいるとします。ある神主さんが「神道とはこういうものだ」「神道とはこうですよ」と言うと、「司馬遼太郎が確か神道は言挙げしないと書いていたけれども、口うるさいおせっかいな神主さんですね。神道はあまりごちゃごちゃ言わないほうがいいんじゃないですか?」と言われたら、皆さん方「そうですね、神道は昔から言挙げしないと云ってますし」と答えますか。じゃあ聞きますが、そもそも神道は言挙げしないと誰が言い出したんですか。だって現実には何々神道というのは一杯言挙げしてきましたよ。例えば、(略)次々と色々な仏教的立場から神道を説いてきた。で、その帰結が本地垂迹説。ついで鎌倉時代から室町時代にかけて伊勢の、特に外宮を中心とした神主さんたちが色々なことを説いてきた伊勢神道。その結果が神道五部書です。それからここ京都の吉田神社の卜部(吉田)兼俱が、唯一神道を唱える。これが江戸時代に入ると、山崎闇斎が儒教の朱子学をもとに日本書紀や、そういう神々のことを考えて垂加神道を唱えた。これも言葉として思想化する。全部言挙げしています。

その後出てきた国学者の本居宣長、平田篤胤にしても「神道は言挙げしない方がいいんだ」と言ったのなら、彼らは神道に対して何も発言していないのかというと、そうではなくたくさん喋っている。もともと宣長が、言挙げしていないというのは「日本には何々の道という思想はないんだ。だから神の道といっても、仏道とか儒道とかいった意味での道ではないんだ。つまり、⁽²⁾おのずからなるままの、ある目的地があったらそこへ行く単なる道としか意味しないんだ。それが神々の道なんだ。神のまにまになんだ」というようなことを言った。それも彼自身の説明です。彼が批判したのは、垂加神道であるとか仏教的な神道が、色々とかやく仏教の立場や儒教の立場から、日本書紀や神のことを解釈するから、そういうものはおもとなかったんだという意味で言ったわけです。⁽³⁾そうじゃないんだということを説明するためにやはり言葉が必要です。彼が神道は言挙げしないと言ったのはそういう意味なんです。神道は言挙げしてはいけない、すべきではないという意味ではなくて本来言挙げしなくてもあったものが神道なんだ、神の道なんだ。ところがそれが一人歩きして神道というのは何も喋る必要がないし、ただお祭りをしている、境内を掃き清めている、それだけでいいんだ。それによって自然と氏子崇敬者が頭からひれ伏し浄化されるんだ、とだけ理解される。確かにそういう面も非常に大事な面です。本質的な面もあります。しかし何か問われる、あるいは何か説明しなくてはならないときに「いや神道は言挙げしないし、する必要がないんです。神道が知りたいのなら私の姿を見て下さい」と言う。しかし、その時「神主さん、なぜ右足から出て、大麻は左右左と振るんですか。今読んだ祝詞というのは一体どういう意味があるんですか」「いや神道は言挙げしない。語らない」「語らないんじゃないって語れないんじゃないですか。ひょっとしたら知らないんじゃないですか。ちょっとその祝詞見せて下さい。振り仮名振ってあるじゃないですか。意味分かっているんですか。祝詞なのに”は、が”わ、”になっていたり”ふ、が”う、”になっていたりしてますね」「いや言挙げしない」。そこまで聞きたい人がいないというだけのことですよ。私の父がよく言っていたんですが「もし百人の人がいて九十九人の人が質問しなくても、たった一人の人間が『おかしいんじゃないですか』と問う。その時それに答えられなかったらそれで終わりだぞ」と、子供の頃から聞かされてきました。怖いのは多数じゃない。本当に知っている人間、考えている人間。それこそが一番怖いんだ。ただそういう人たちは思慮深いですから面と向かって恥をかかせるようなことはしない。⁽⁴⁾**武士の情け**ですよ。それだけの話です。それで通ってきたと思っている人がたくさんいるわけです。何とか無事にやってきた。今日まで大丈夫だったから明日も大丈夫だろう。しかし、本当に神明に奉仕する者として、正しい生き方なんだろうか。知らないもの、無知なもの、あやふやなものは正に強いて勉めてなんとかしよう、恥ずかしくて聞こうとする、年上であろうがなかろうが。私はそういう謙虚さが、神道あるいは神社を支えてきたのではないかなと思うのです。(略)

私が今しているような話は、ある意味では文書として知っているわけです。要するに、言挙げすべきことと言挙げしてはいけないこと、しなくてもいいところ、これをきちんと踏まえて、いざ言挙げしなければならぬ時は、きちんとものを言える。例えば徳川幕府が寛文五年に出した⁽⁵⁾**『諸社欄宣神主法度』**を見ましても「諸社の欄宣神主等専ら神祇の道を学び、その敬ふ処の神体は愈々これを存知すべし」、神祇の道を学び(神道の学問)そして仕えている神社、御祭神、その地域、そういうものをますますよく知るようにする。これは『諸社欄宣神主法度』の第一条です。神主に求められているのは、正に学問、勉強です。これは人に言挙げする必要がない、何も吹聴しなくてもいいということなんです。勉強、学問をすることによって、いざという時に、きちんと説明することができるが必要なのです。それは、存知しているところ、知っているところでいいんです。学んだところをきちんと言挙げせよということです。

(阪本是丸『神道と学問』による。仮名遣いは一部改めた)

＊「やはり神道は言挙げしないのが相応しい」…司馬遼太郎『この国のかたち(五)』『神道(七)』の結びの文章に対応した表現。同章では、平田篤胤にはじまる幕末期の国学の展開に力点を置きながら、中世から近世末の神道思想の展開について叙述されている。

問一　傍線部(1)の意味を、一〇字以上一五字以内で解答欄に記入しなさい。

問二　傍線部(2)の意味を、一〇字以上一五字以内で解答欄に記入しなさい。

問三　傍線部(3)を言い換えた文章として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、冒頭の記号を解答欄に記入しなさい。

ア　神道という宗教は存在しないのだ。
イ　いかなる立場からでも、神道を解釈してはいけないのだ。
ウ　神道の解釈は仏教や儒教の立場からでないとできないのだ。
エ　仏教や儒教の立場からの神道の解釈は、元来日本にはなかったのだ。

問四　傍線部(4)の具体的な内容を、「本当に知っている人間」「神明に奉仕する者」という語句を用い、三〇字以上四〇字以内で解答欄に記入しなさい。

問五　傍線部(5)の読みを解答欄に記入しなさい。

問六　この文章の要約を、二五〇字以上三〇〇字以内で解答欄に記入しなさい。

問七　この文章の内容を踏まえ、神職としてどう恥をかきながら氏子・崇敬者に接するべきか、自らの意見を五五〇字以上六〇〇字以内で解答欄に記入しなさい。

令和4年度

国語総合

次の文章を読んで、後の問一～六に答えなさい。

『日本書紀』神代上第八段の一書に、五十猛命・大屋津姫命・杵津姫命の三神を「木種」の管理者と認定した記事が見える。木種・木苗にかかわる民俗はきわめて重要なものではあるが、その調査は進んでいない。焼畑輪作を終え、山を休憩させるに際して榛の木苗を植える習俗は、かつて各地に見られた。山梨県南巨摩郡早川町奈良田では、焼畑跡への移植を目的として、榛、フシの木、落葉松の二年目の苗を取るために女たちがそろって谷へ入った。岩手県裨貫郡大迫町内川目(現花巻市)でも焼畑の跡へ榛を植えたが、ここでは「種榛の木」として榛の巨木を守り育て、毎年、その木の下から苗を採って移植したものだという。このような「種木」に対する尊崇も樹木信仰発生の一つの要素になっていたはずである。

焼畑輪作の二年目ないし三年目の畑を「クナ」と称する地が神奈川・長野・山梨・静岡・宮崎県などにある。原初、焼畑地を一年ないし二年で放棄休憩させていたころ、その休憩地の木が順調に再生することを祈ってその地を禁足地とし、「来勿」と称していたことが推察される。

⁽¹⁾これも、自然に対する人間の謹しみを示すものであった。

静岡県口坂本では、毎月一日は木が生える日だから一日には木を伐ってはいけない、四日は竹を伐ってはいけないと言い伝えている。また、静岡県焼津市小川では一月四日を「木を植える日」と称して、この日は「松の木を逆さに植えても根づく」と語り伝えている。これと対応する形で、静岡県榛原郡吉田町では、寒の明け一週間前ぐらいに屋敷の木を一本でも切らなければならないと言い伝えていたので、植木屋が民家をまわって庭木の小枝を一本だけ切ってまわり、祝儀をもらう風があったという。寒明けを期して樹木が再生することを願う呪術であったと思われる。静岡県磐田郡豊田町富里(現磐田市)では、木の三尺から下には金神様がいるから三尺から下の枝は伐るものではないと言い伝えている。植木職人の伝承のなかからもさまざまな木の民俗が読みとれる。

宮崎県西臼杵郡高千穂町には一月十四日を「松入れ」と称して、前年に結婚・誕生など吉事があった家に、根引きの松を包んだものを「ヨイヨ

イ・サッサ」の掛け声で夜中に投げこむ行事があったという。宮廷を中心に貴族の間で行なわれた「子の日の遊び」「姫小松引き」「子の日小松引き」は中国の影響によるもので、松の芽を食したと伝えられるが、これが民間の「春山入り」と習合したことも考えられ、その際、切り松ではなく「根引き松」であることの意味が大きくなる。高千穂の松入れは、言い換えれば、吉事に対して共同体から「松苗」を贈ることになる。松入れの松は、植えるために根引きにされていたのであった。こう見てくると、子の日の小松引きについても、単に芽を食したのみならず、植える習俗があった可能性もさぐってみなければならない。藤枝市滝沢八坂神社の田遊び「田植」の詞章の冒頭では、⁽²⁾「へ東山に　東山に　子の日の姫小松　リリウラ　子の日の姫小松　リリウラ　この木引かむや　この木引かむや」と歌われる。

椿はその花で人を楽しませ、実によって人に油を恵み、材は道具として役立ち、灰までも染色に際して力を発揮した。青森県の夏泊崎や秋田県の男鹿半島にはみごとな椿山がある。柳田国男は昭和三年一月三日のラジオ放送で、「椿は春の木」と題して、天然記念物に指定された北の椿はいわゆる天然記念物ではなく、人の手によって伝えられ、守られたものであったことを語った。

伊東市の鹿島踊りの詞章に次の歌詞がある。

へ鎌倉の御所のお庭に椿を□**X**様にやる　日が照れば涼み所
雨が降らば雨やどり

また、駿河麦搗唄では次のように歌われる。

へ麦を搗いて帰る道に椿を□**X**日が照らば涼みどころ
雨が降らば雨宿

これを見ると、「椿を□**X**」という常套句が広く行なわれていたことがわかる。

実生の椿を育てる方法もあるが、椿の苗を移植して育てる方法もあった。

海石榴市の八十の衢に立ち平し結びし紐を解かまく惜しも
(『万葉集』二九五―)
紫は灰さすものぞ海石榴市の八十の衢に会へる子や誰
(『万葉集』三一〇―)

海石榴市は、奈良県桜井市金屋の椿市観音・椿市地蔵がある地とされている。その命名由来につき、折口信夫は、山人が椿の枝の杖を持ってきて魂ふりをしたことによると説く。別に、市の場にその標のごとく椿の古木があったことなどが想定できるが、むしろ、山の人がびとが椿の苗を持ち来って町びとと里びとに売る、その椿が名物になっていた市と考えるべきではなかろうか。祭日に神前に収穫物を奉納し、その一部によって「種替え」を行なうという形で作物の品種改良を行なう民俗は各地にあり、その伝統は長かった。椿も、祭日・緑日・市に登場し里に広まった植物である。同系のものに、魔除けとして用いられる柊があった。椿が山から里へ、里から町へと広がったと同様、柊も山から里、里から町へと広がり、現在も、京都や奈良の町中において、その一枝一枝が実に多くの家々で節分の門口を飾っている。

永遠の寿命を与えられた八百比丘尼は椿の枝を持って諸国をめぐつたと伝えられる。八百比丘尼は日本海側の若狭を起点とし、椿の自生しない雪国を中心に椿の力を宣布し、椿の実種を頒布してまわった「椿の配達人」であった。その実のもたらす油による黒髪くろかみの喧伝こそ⁽⁴⁾**當乙女八百比丘尼**伝承のポイントであった。

緑日と祭礼の日、苗木市の出る地は多い。この習俗は、けっして新しいものではなく、それは大和の海石榴市以来の伝統であったと考えられる。『豊後国風土記』のなかにも同名の海石榴市が見えることは、古代にも苗売りの習俗がかなり広い範囲で行なわれていたことを語っている。「□**X**」といういとなみは、わが国の民俗的伝統だったと言えよう。

(野本寛一『神と自然の景観論』。一部人物の氏名・職業・生年は略した)

問一　傍線部(1)の「これ」以外の、文中にあげられた「自然に対する人間の謹しみを示すもの」の具体例二例を、合わせて五〇字程度で解答欄に記入しなさい。

問二　傍線部(2)に著者が注目した理由の推察を、五〇字程度で解答欄に記入しなさい。

問三　空欄□**3**にあてはまる適切なふりがなを、解答欄に記入しなさい。

問四　傍線部(4)の説明を、同じ段落の語句を用いて解答欄に記入しなさい。

問五　空欄□**X**にあてはまる語句として適切なものを、次のア～エから一つ選び、冒頭の記号を解答欄に記入しなさい。そのうえで文章全体の要約を、三〇〇字程度で解答欄に記入しなさい。

ア　謹みて楽しみて
イ　売りと配りて
ウ　伝えて守りて
エ　植えて育てて

問六　文章の内容を踏まえて、日本のまつり・儀礼と自然環境との関係についての自らの考えを、六〇〇字程度で解答欄に記入しなさい。

令和3年度

国語総合

次の文章は、近世の国学者本居宣長が古道論について述べた『直毘靈』の一節である。文章を読み、後の問いに答えなさい。

人はみな、産巢日の神の御霊によりて、生まれつるまにまに、身にあるべき限りの行は、おのづから知りてよく為る物にしあれば、世の中に生きとし生ける物、鳥蟲に至るまでも、己が身のほどほどに、必ずあるべき限りのわざは、産巢日の神の御霊に頼りて、おのづからよく知りてなすものなる中にも、人は殊に優れたる物と生まれつれば、また、しか優れたるほどに叶ひて、知るべき限りは知り、すべき限りはする物なるに、いかでか其の上をなほ強ふことのあらむ。教へによらずては、え知らずえせぬものといはば、人は鳥蟲に劣れりとやせむ。いはゆる仁義・礼讓・孝悌・忠信のたぐひ、皆人の必ずあるべきわざなれば、あるべき限りは、教へを借らざれども、おのづからよく知りてなすことなるに、かの聖人の道は、もと治まりがたき国を、強ひて治めむとして作れる物にて、人の必ず有るべき限りを過ぎて、なほ厳しく教へたてむとせる強事なれば、まことの道に叶はず。故れ、口には人みなことごとしく言ひながら、まことに、しか行ふ人は、世々のいとありがたきを、天理のままなる道と思ふは、いたく違へり。

問　本居宣長の神観念や「教へ」に対する考え方について三〇〇字程度でまとめた上で、「神道と教義」についてのあなたの考えを、解答欄に六〇〇字程度で記入しなさい。

別科神道専修

令和5年度 別科神道専修Ⅰ類・Ⅱ類

一般常識・小論文

1 次の空欄□1□～□20□にあてはまる適切な語句を、別紙解答用紙に記入しなさい。(四〇点)

- ① 皇祖とされる天照大御神を祀る□1□は、三重県に鎮座する。
- ② 養老四年(七二〇)に完成した『□2□』は、漢文体・編年体の様式で記された日本最古の官撰による国家の正史である。
- ③ 桓武天皇は、延暦十三年(七九四)に都を□3□に遷した。
- ④ 鎌倉幕府滅亡後に後醍醐天皇が始めた政治形態を□4□という。
- ⑤ 天文十二年(一五四三)、ポルトガル人の乗った船が種子島に漂着したことにより、□5□が日本にもたらされた。
- ⑥ 江戸時代、寺院に一般民衆を檀家として所属させ、キリシタンでないことを証明させる制度を□6□という。
- ⑦ 明治元年(一八六八)に発布された明治新政府の基本方針を□7□という。
- ⑧ 明治二十二年(一八八九)、大日本帝国憲法とともに制定され、終戦後の昭和二十二年(一九四七)に新たに公布された皇室関係の法規は□8□である。
- ⑨ 乾燥した地域の中で、井戸水や河川などから淡水を得ることのできる場所を□9□という。
- ⑩ 日本の領土である北方領土は□10□、色丹島、択捉島、歯舞群島の四島からなる。
- ⑪ 国連海洋法条約において、領海の外側にあって海岸の基線から二百海里の距離内に設定されている□11□水域では、沿岸国の天然資源などに関する主権を認めている。
- ⑫ 湿った空気が山肌に当たり、山を越えて下降気流になるとき、暖かく乾いた風となって地上付近の気温が上がる現象を□12□という。
- ⑬ インドを中心に五世紀頃に確立した□13□は教祖を持たない宗教である。人の行動の規範となる伝統的な制度や慣習が基盤となり、カースト制度とも結びつきが強い。
- ⑭ 一五一七年、ウィッテンベルク大学神学教授の神学者□14□は、カトリック教会が発行する贖宥状(免罪符)の販売を批判し、ドイツの宗教改革を指導した。
- ⑮ 第二次世界大戦終結後、西側諸国によって結成された軍事同盟は□15□である。
- ⑯ 日本国憲法で第一条にて、「日本国の象徴」であり「日本国民統合の象徴」とされているのは□16□である。
- ⑰ 東日本大震災からの復興を目的として、内閣に設置されている行政組織を□17□という。
- ⑱ 「この世に存在するあらゆる事物・現象のこと」を意味する四字熟語は□18□である。

⑲ 「多くの人がみな、口をそろえて同じことを言うこと。多くの人の意見が一致すること」を意味する四字熟語は□19□である。

⑳ 平成二十八年(二〇一六)、日本における地域社会の安泰や災厄の防除を願って地域の人々が一体となり執り行われる、三十三件の祭礼行事が、「山・鉾・屋台行事」の名称で国際連合教育科学文化機関である□20□の無形文化遺産に登録された。

2 次の質問二題について答えなさい。(六〇点)
※なお、解答は解答欄に記入すること。

- ① 別科を受験した動機と、入学後にどのようなことを学び、実践してみたいかについて二〇〇字程度で述べなさい。
- ② 将来、神職資格を取得して神社に奉職した際に、あなた自身を取り組んでみたい活動を三〇〇字程度で詳しく述べなさい。

令和4年度

一般常識・小論文

1 次の空欄□1□～□20□にあてはまる適切な語句を、別紙解答用紙に記入しなさい。(四〇点)

- ① 国づくり神話にも登場し、大国主大神を祭神とする出雲大社は□1□県に鎮座する。
- ② 日本で標高が最も高く、その山頂が神社の境内地である山は□2□である。
- ③ 『伊豆の踊子』『雪国』といった代表作で知られる□3□は、日本人の心の精髓をすぐれた感受性をもって表現した作家であり、昭和四十三年にはノーベル文学賞を受賞した。
- ④ 「昔の物事を研究し吟味して、そこから新しい知識や見解を得ること」を意味する四字熟語は□4□である。
- ⑤ 「生涯にただ一度まみえること、一生に一度限りであること」を意味する四字熟語は□5□である。
- ⑥ 日本国憲法の理念は平和主義、国民主権、□6□の尊重である。
- ⑦ 1年間に国内で新たに生産された財・サービスの価値の合計を□7□といい、アルファベットでGDPと表記される。
- ⑧ 明治十五年に創立された□8□は、日本の中央銀行として国庫金の取り扱い、銀行券の発行などを行うのみならず、経済・金融の中核機関として種々の活動を営んでいる。
- ⑨ 平治の乱により伊豆に流された□9□は、以仁王^{もちひと}の令旨^{りようじ}を奉じて坂東武士らと平氏追討の兵を挙げ、鎌倉を本拠として東国を固めた。そして、平氏を滅亡させ、弟の義経を追放し、奥州藤原氏を滅し、建久三年には征夷大將軍に任じられた。
- ⑩ 江戸時代の大名の分類には、関ヶ原の戦い以前より徳川氏に臣従して取り立てられた譜代大名と、関ヶ原の戦い前後に臣従した□10□大名がある。
- ⑪ 明治十年の西南戦争は、明治政府に対する不平士族の最大かつ最後の反乱で、□11□を盟主にして挙兵し、熊本県、宮崎県、鹿児島県を転戦したが、政府軍の反撃により敗退した。日本国内で最後の内戦である。

⑫ □12□は、昭和二十六年九月に調印された、第二次世界大戦の終結と国交回復について連合国諸国と日本との間に締結された平和条約である。

⑬ 平安時代初期の僧で、真言宗の開祖である□13□は、延暦二十三年に入唐して密教を学び、帰朝後は京都の東寺、高野山金剛峯寺の経営に努めた。

⑭ アメリカ合衆国第十六代大統領の□14□は、南北戦争下の一八六三年に奴隷解放を宣言し、「人民の人民による人民のための政治」という民主主義の理念を説いた。

⑮ モンゴル帝国第五代皇帝のフビライが建てた国である□15□は、南宋を滅し、周辺の国々を服属させ、東アジアに大帝国を建設した。しかし、日本には二度にわたる遠征を行なったが失敗に終わった。

⑯ 全国を平定した豊臣秀吉は、文禄元年、加藤清正・小西行長を先鋒として□16□に出兵した。初めは連戦連勝したが明の援軍が到着し、こう着状態となり撤退した。慶長元年には再び出兵するも、秀吉が死去したため撤退した。

⑰ 近松門左衛門作の人形浄瑠璃「国姓爺合戦」の主人公の和藤内(鄭成功)は、長崎県の平戸にて中国人の父、日本人の母との間に生まれ、清朝への抵抗運動を続けて□17□に渡った実在の人物である。

⑱ □18□とは、侵食された山地が地殻運動または海水面の変化のために海水の侵入を受け、複雑な海岸線をなしているものである。日本では三陸海岸、若狭湾、志摩半島から紀伊半島、日豊海岸などが有名である。

⑲ 明治時代の実業家である□19□は、第一国立銀行を経営したほか、製紙、紡績、保険、運輸、鉄道など多くの企業設立に関与し、引退後は社会事業や教育に尽力した。

⑳ もともとオリンピックは古代□20□で4年に一度開催されていた競技大会であった。19世紀末にクーベルタン^{クーベルタン}の提唱によって近代オリンピックが開催されるようになり、現在では世界的なスポーツ大会となっている。

2 次の質問二題について答えなさい。(六〇点)
※なお、解答は解答欄に記入すること。

- ① 別科を受験した動機と、入学後にどのようなことを学び、実践してみたいかについて二〇〇字程度で述べなさい。
- ② 将来、神職資格を取得して神社に奉職した際に、あなた自身を取り組んでみたい活動を三〇〇字程度で詳しく述べなさい。

令和3年度

一般常識・小論文

1 次の空欄□1□～□20□にあてはまる適切な語句を、別紙解答用紙に記入しなさい(四〇点)。

- ① 皇祖とされる天照大御神を祀る伊勢神宮は、□1□県に鎮座する。
- ② 令和元年(二〇一九)五月一日に即位した天皇陛下は、初代□2□天皇から数えて百二十六代目である。

③ 元明天皇は、和銅三年(七一〇)に藤原京から□3□京へと遷都した。

④ 戦国時代の幕開けとなった戦乱は□4□の乱で、主戦場となった京都は戦火に焼かれ荒廃した。

⑤ 天文十八年(一五四九)、イエズス会の宣教師□5□が日本にキリスト教を伝えた。

⑥ 江戸幕府は、禁教と貿易統制を目的に日本人の海外渡航禁止と外国船来航規制を断行する政策として□6□をとった。

⑦ 慶応三年(一八六七)、江戸幕府十五代將軍徳川慶喜は□7□を行い、政権を朝廷に返上した。

⑧ 日本の領土である北方領土は国後島、色丹島、□8□島、歯舞群島の四島からなる。

⑨ 日本列島の太平洋側を北上する暖流は□9□潮、千島列島に沿って南下する寒流は親潮である。

⑩ 関東地方の高台を覆っている赤褐色の火山灰層を□10□層という。

⑪ 都市の中心地の人口が減少し、郊外の人口が増加する人口移動現象を□11□化現象という。

⑫ 地表上において北極点と南極点からともに等しい距離にある点を結んだ線を地球の□12□道という。

⑬ 日本の河川で、最大の流域面積を持つのは利根川、最長は□13□川である。

⑭ ムハンマド(マホメット)は、アラビア半島のメッカに生まれ、七世紀初め頃に□14□教を創始した。

⑮ 一九八九年(平成元年)、□15□の壁が開放され、翌年、東西ドイツの統一が実現した。

⑯ 日本国憲法第一条にて、日本国の象徴であり、日本国民統合の象徴とされているのは□16□である。

⑰ 平成二十一年(二〇〇九)、一般の国民が刑事裁判に参加する□17□制度が始まった。

⑱ 現在の日本の元号「令和」は、日本に現存する最古の和歌集□18□から採用された。

⑲ 近代オリンピック第一回大会が開催された都市はギリシャの□19□である。

⑳ 新型コロナウイルスへの対応を続ける医療従事者に敬意と感謝の意を示すため、令和二年(二〇二〇)五月二十九日に首都圏の空を飛行したのは、航空自衛隊宮城県松島基地の第四航空団に所属する「第十一飛行隊」である通称□20□である。

2 次の問いに答えなさい。(六〇点)
※解答欄が足りない場合は、解答用紙の裏面を使ってもよい。

- ① 別科を受験した動機と、入学した後にどんなことを学び、実践してみたいかについて、二〇〇字以上で解答欄に記入しなさい。
- ② 将来、神職資格を取得して神社に奉仕した際に、あなた自身を取り組んでみたい活動を、三〇〇字以上で解答欄に記入しなさい。